

令和3年度授業改善推進プラン（調査結果分析シート）

西東京市立青嵐中学校

●全国学力学習状況調査（小学校第6学年・中学校第3学年）

	課題が見られた問題の概要	正答率	調査結果を踏まえた成果	調査結果を踏まえた課題
国語	3四「吾輩」が「黒」をどのように評価し、どのような接し方をしているかや、そのような接し方をどう思うかを書く	22.1%	全ての観点において全国の平均を上回り、また無回答の率も低いことから国語に対して意欲的に取り組もうという姿勢が高く、基礎的な知識・理解が定着していると考えられる。	授業で話し合い活動を意識的に取り入れているため、話すこと、聞くことの定着率は高い。しかし、文章から相手の意を汲み取る力が課題である。話し合い活動において発言者の意見をしっかり聞くことや、日常的に文章に触れて詠む力を向上させる取組を工夫する必要がある。
	3二「喝采してやる」と「とった」のそれぞれについて、誰の動作なのかを選択する	56.4%		
	2一意見文の下書きを直した意図として適切なものを選択する	27.1%		
	3一「呼吸をのみこんだ」の意味として適切なものを選択する	47.9%		
算数・数学	8(3)「日照時間が6時間以上の日は、6時間未満の日より気温差が大きい傾向にある」と主張できる理由を、グラフの特徴を基に説明する	7.1%	数と式および図形分野では基礎的な知識、計算が定着させることができている。全体的に無回答の率が低く、数学に取り組もうとする姿勢の高さが感じられる。	図形分野や資料の活用において、特に数学的に論理立てて考えることや説明することに対する苦手意識が強いため、授業において具体的なイメージをしやすいようにするために問題などを図で示したり、論証を補助する学習活動や支援の工夫が必要である。
	8(2)2つの分布の傾向を比べるために相対度数を用いることの前提となっている考えを選ぶ	31.4%		
	9(1)四角形ABCEが平行四辺形になることを、平行四辺形になるための条件を用いて説明する	49.3%		